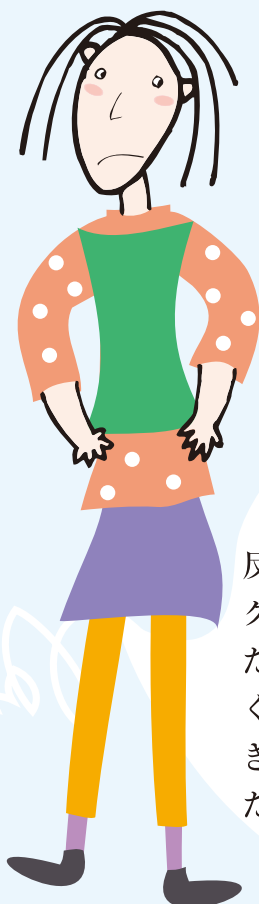


「ほめる」

■エピソード



1

母親の洋子さんに反対されたままロックコンサートに行った由美さん。まったく洋子さんとは口をきかないまま数日がたっています。

3

昔は仲のいい親子だっけ言われたのに、今はきまずいなあ。

小さいころは『由美は言うことよく聞くし、なんでも一人でできるいい子だ。』とほめてくれたけれど…。



「あの夜はバスもなくなって、歩いて帰ったから遅くなったんだ。なのにずっと怒ったままなんだから…。でも…、あの夜、家の鍵も開けてくれてたよなあ。私が帰ってくるまで起きていたようだし、お母さんも少しは気にしてくれてたのかなあ。」

お母さんに「ごめんなさい。心配してくれてありがとう。」と言いたい気持ちはあるのですが、なかなかきっかけがつかめないでいます。

4

今は顔を見ると文句ばかりだし、ついつい私も口ごたえしてしまうんだよね。

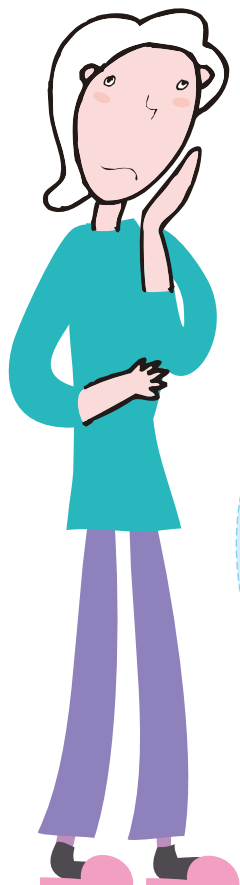
どちらかが、もう少し相手の言うことをじっくり聞いたらいいんだろうけれど、なかなかきっかけがないし…。

親が自分をほめないように、自分も親のことをほめることも、ありがとうっていうこともなかったと思いはじめた由美さんです。



2





母親の洋子さんのひとりごと…

- あの子も勉強についていくのに大変だし、毎日よくがんばっていると思うけど、顔を見ているとついつい文句になってしまう。コンサートに行きたいと言ったときも、気をつけて行っておいでとだけ言ったらよかったんだろうなあ。



グループワーク

1 グループに分かれて話しあってみましょう。

- ① エピソードを読んでどのように感じましたか？
- ② あなたが親にほめられたのはどんなときでしょうか？
- ③ そのときのあなたの気持ちはどうだったでしょうか？
